



Lend a Hand  
手を貸そう

国際ロータリー第2750地区多摩東グループ  
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

# Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-5-12 第651回例会 NO. 14-40 2004.5-19 発行

## ◎司会

SAA委員会 田島真由美

## ◎点鐘

会長 大松 誠二

## ◎国歌斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

ソングリーダー 吉沢 洋景

## ◎お客様紹介

会長 大松 誠二

- ・東京法務局多摩出張所長 川澄 安 様
- ・岡山西南RC 椎原 裕二 様
- ・多摩青年会議所 専務理事 岡田 一枝 様
- ・ " 副専務理事 阿部 綾 様

## ◎会務報告

会長 大松 誠二

### ・会員増強について

改めて会員の皆さんに協力をお願いしたいと思います。田中委員長の強力な呼掛けで、皆さんには会員増強の必要性については十分理解頂いていると思いますが、もう一度まわりを見回して下さい。会員に相応しい人が必ず見出せると思います。経済状態等で入会依頼もなかなか言い出しにくいのは承知していますし、また入会に繋がらないのではとの不安もありましょうが、ロータリー・クラブについての理解のため、十分に話をして頂きたい。

皆さんには会員増強への一層のチャレンジをお願いします。

## ◎幹事報告

幹事 藤本 吉文

### ・回 覧

東京多摩RC創立35周年イベントへの登録表と同クラブ週報

登録表には特別事業、式典、懇親会への参加の是非を記入願います。

・4月度平均出席率 74.76%をガバナー事務所に報告しましたが、本年度も残り僅か。出席率向上に努めてください。

## ◎次年度会務報告

次年度会長 菊池 敏

### ★地区協議会報告 (要約)

2004～05 年度仲田ガバナー方針・地区重点目標

- ①RI会長テーマと強調事項の推進
  - ②国際ロータリー100周年記念一人一奉仕運動の展開
  - ③地区ロータリアン5,000名の維持を目標とする。
  - ④1クラブ拡大を目標とする。
  - ⑤ロータリー財団年次寄付は、1人100ドル寄付を中心に前年寄付額を下回らないよう努力し、ベネファクター80名を目標とする。
  - ⑥米山一般寄付は、8,000万円+αを目標とする。
  - ⑦ポリオプラスは3年計画の最終年度のため、1人5,000円をクラブ予算として25万ドル達成を目標とする。
  - ⑧韓国(第3650地区)との青少年交換プログラムを実施する。これを機に双子クラブ活動に結び付ける。
  - ⑨シカゴの国際大会(2005年6月19日～22日)への参加を推進する。
  - ⑩RI会長賞への挑戦
- その他
- ・青少年に対する薬物乱用防止運動の全国展開。
  - ・当地区内パシフィックベースンにおける水不足問題への援助。
  - ・地域内中学生の職業体験に協力。
  - ・青少年交換プログラムにおけるホストファミリーの確保と地域内高校との直接交流による同プログラムへの理解促進。
  - ・地区分担金(年会費)15,500円/人に改訂。

等々

### 東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号  
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491  
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会 長】大松誠二 【幹 事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委 員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澁川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰樹



★本日例会後、事務局にて被選理事会を開催、上記による予算修正を検討しますので役員理事の方はご出席下さい。

### 【委員会報告】

#### ◎出席報告

出席委員会 小林 正

- ・会員総数 42名
- ・出席義務者数 41名(出席免除者1名)
- ・出席者数 32名
- ・欠席者数 9名(事前MU0名)
- ・出席率 78.05%
- ・欠席者：藤原 正範、平野 行廣、北村 幸彦、小泉 博、小坂 一郎、杉野志保子、澄川 昇、高野 範城、由井 眞司
- ・補填MU：菊池 敏 4/21 理事会

#### ◎ニコニコBOX

親睦活動委員会 宮村 宏

- 大松 誠二 多摩登記所所長 河澄様、卓話を宜しくお願ひします。
- 藤本 吉文 萩生田政由さん、先日は大変お世話になりました。
- 小城 章員 河澄所長、卓話宜しくお願ひ致します。
- 小林 和夫 ミヤムラテニススクール25周年おめでとうございます。
- 伊澤ケイ子 萩生田茂夫さん、遠藤さん、お世話になり、ありがとうございました。
- 関岡 俊二 先日、メッテが来日しました。皆様に宜しくと言っていました。
- 田島真由美 宮本さんの案内で“紫アカシア”を初めて見ました。伊藤さん、色々お世話になりました。
- 村上 久 多摩登記所 河澄所長様、卓話楽しみにしています。
- 萩生田政由 河澄様、ようこそ！卓話楽しみにしています。
- 加藤喜三郎 法務局所長の河澄様、卓話楽しみです。
- 小林 正 皆さん！ゴールデンウィークはアメリカ？ヨーロッパ？私は元気(?)に働きました。(涙、涙・・・)
- 津守 弘範 法務局多摩出張所所長の河澄さん、卓話楽しみにしています。
- 宮村 宏 多摩グリーンロータリーのお祝い電報ありがとうございました。又、京王プラザホテル多摩総支配人には大変お世話になりました。

本日の合計¥19,000 (累計¥822,061)

#### ◎国際奉仕委員会

委員長 吉沢 洋景

国際大会も10日後に迫りました。例会後、参加者の方はご参集下さい。出発日のスケジュール及び配付資料の取扱い等について打ち合わせます。

本日、被選理事会開催とも重なりますので、来週例会時に実施要項を資料として配付いたします。

旅行傷害保険は杉田会員にお願いします。保険料は1人当たり1,000円程度の負担です。

#### ◎ゴルフ同好会

菊池 敏

プロアマチャリティゴルフを申込者は参加費を集金させて頂きますのでよろしくお願いします。

#### ◎会員増強委員会

委員長 田中 實

会員及び当委員会委員にご尽力頂いていますが、会員の増強がまだ目標に達していません。年度末も迫っておりますので、重ねてご協力をお願いします。

是非、当クラブ会員として相応しい方がおられましたらご推薦下さい。

#### ◎卓話 『オンライン登記申請について』(要約)

東京法務局多摩出張所長 川澄 安 様



オンライン登記申請は、世界最先端のIT国家を目指す政府の政策に基づく登記事務の改革である。

法務省は平成13年7月からこの研究に着手、昨年7月に不動産登記法の改正骨子案が固まり、今年の3月3日、不動産登記法の改正法案が通常国会に提出されました。この法案が国会を通過すると来年3月から不動産登記申請が企業や家庭のパソコンからオンラインで実施できることとなり、従来の申請に並行して、順次、全国展開さ



れることとなる。これは申請者の利便を考慮したものである。

更に、オンラインに拘わらず、来年3月からはすべての登記申請が従来の出頭主義を廃止し、使者を使っても、また郵送でも申請が可能になる。法務局の負担は増えるが、利用者にとっては更に利便性が向上し、当初はオンラインよりもメリットがあると考えられる。

法務局としてはこれらの実施に際して登記の正確性を確保するため本人確認の手続を充実させる。

その方法として、登記済み証に代えてアルファベットと数字を組み合わせた登記識別情報を採用する。また、登記済み証がない場合の保証書制度も廃止される。その代わりに事前通知制度により過去の住所に遡って通知を発送して正確性を確保する。司法書士等の資格者による本人確認がある場合はその手続を排除する。また、申請者が本人か否か疑わしい場合、即ち「なりすまし申請」等を排除するための登記官の本人確認を充実する。

この「なりすまし申請」を排除するためには、不動産所有者自身の不断のチェックも肝要である。

前述の登記識別情報は複数所有者に発行されるので、従来の共有不動産の際の単一登記済み証の弊害は改善される。

また、登記申請に際しては登記原因証明として契約書等の確証の提出が必要になる。

以上がオンライン化による主要な改正点である。

#### ◎多摩青年会議所挨拶

専務理事 岡田 一枝 様  
副専務理事 阿部 綾 様

創立30周年記念式典及び特別事業案内  
第8回わんぱく相撲案内及び協賛依頼

#### ◎点鐘

会長 大松 誠二  
(例会担当：赤尾 恭雄)

### ポール・ハリスを我々の心に！ Part 48

1910年のシカゴ大会後、ロータリーは順調な発展を遂げた。僅か1年のうちに、アメリカ国内のクラブ数は28を数えた。国内組織が軌道に乗ったので、全世界は兎も角、多数の国の参加を得て国際的な組織へと夢も湧いてきた。翌1911年、カナダのウィニペグとロンドンが加盟すると、クラブ数は一気に50に達した。

1913年、大型の竜巻がネブラスカ州を襲い、オハイオ、インディアナ両州は大洪水に見舞われた。両州のロータ

リー・クラブは、全国のロータリー・クラブの支援を得て、人間や動物の救助活動、給食活動に参加し、更に復興事業を援助した。これは、正にロータリー創設以来、奉仕団体として初めての試練だった。

1914年に勃発した第1次世界大戦中も、イギリス、カナダのロータリー・クラブ、そして戦争末期に参戦したアメリカ、キューバのロータリー・クラブも非常事態の中で奉仕活動に専念した。戦時の衝動にかられた会員の中には定例会中止の主張もあったが、ロータリーの定例会は、会員の士気を高揚し奉仕活動を練る唯一の場所であるとの冷静な意見が大勢を占め活動は継続され、1917年、1918年には、戦時中の奉仕活動を目的にロータリー大会も開催された。



第1次大戦後、1921年に海外で初のロータリー大会がイギリス（スコットランド）のエジンバラで開催された。エジンバラは、ポールが1910年に結婚した夫人ジーン・トムソンの生まれ故郷であり、文化、宗教、教育の中心で由緒ある美しい都市である。大西洋を渡って大会に参加する北アメリカのロータリアン達で2隻の豪華客船は満員だった。この大会を契機として、ロータリーはヨーロッパ各地は勿論、ラテンアメリカから南米まで拡大された。こうして、「世界中にロータリーを」のポールの夢は着実に進展していった。

1929年、アメリカに端を発した経済不況は、諸外国にも波及して全世界は不況に包まれ、人々は自信を失った。株式は暴落、工場は閉鎖、巷には失業者が溢れた。そのため、アメリカの各種団体の会員数は激減したが、ロータリーの会員数は殆ど減少せず、ロータリーが士気高揚の拠点であることを立証した。

ところが、再び世界に暗雲が垂れ込め、1939年、第2次世界大戦に突入した。1945年までの戦時中、特に日・独・伊三国にとってはロータリー存亡の危機だったが、一部の真摯なロータリアンの非公式活動がロータリーの灯をともし続けた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)



## 『ロータリー知識』 入門編 「世界平和への取り組み方」

ロータリーは住みよい社会と平和な世界を目指して活動している。その取り組み方は「奉仕」といって人への思いやり、進んで人の役に立つことをモットーにしている。これを「超我の奉仕」「最もよく奉仕するものは最も多く報いられる」と標語にしている。それは、奉仕という方法で人間関係を改善してその目的を達しようとしているのである。よい人間関係が住みよい地域社会を作るだろうことは判るが、それが、果して国際平和の確立に役立つだろうか。

世界平和に必要な方法は言う間でもなく外交即ち政治家の活躍である。しかし現在の世界は沢山の国家があり、従って国境があり、別々の政府がある。政治家の努力は結局その国境と政府のイデオロギーの違いで行き詰まってしまう。政治家は国益という点から一步も前進が出来ないのである。また、経済家の援助も会社をつぶしてまでもは実行は阻まれる。ましてや軍人の軍備競争による抑止力などは一步誤れば人類滅亡を招く大核戦争を惹起するかも知れない。

そのような事情だから残された方法は政府に関係ない国際団体によって、人間同志が理解し手を結び合うより他に世界平和の確立方法はないのである。

この非政府的な民際的且つ世界的な団体として最も実力のあるのがロータリーである。ロータリー会員同志なら仮想敵国の人々とでも意思の疎通も出来るし手を結ぶことも出来るのである。ロータリーはその方法として、留学生の交換、青年の実業視察(GSE)、民間同士の相互援助及び激励が盛んに行われている。

前原勝樹 桐生 R.C. (P.D.G.) 「窓を開くロータリー」(1985)より

(コーナー担当：遠藤 二郎)

### ★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

<5月号 〈友愛の広場より〉より>

#### 奨学生選考試験で感じたこと

東京八王子RC 松本 啓祐 様

2月3日、米山奨学生の面接試験に試験官として参加した。4つのグループに分かれて面接を実施。小生たちのグループは24人の受験生を担当した。多くは中国や韓国からの修士か博士課程に在籍する学生である。面接

を通じて浮かび上がってきたのは、「苦学」が決して死語ではないことだった。

「日本にきて感銘したことは、経済的な理由から勉学をあきらめるといことがとても少ないということだ」と中国人留学生たちが語り、一人の留学生は、親を失い貧しい生立ちの中で必死に勉学を続けていることを説明しながら、おえつをこらえることができなかった。日本の大学生が悪ふざけをしてひんしゅくを買った西安の事件を思い出すまでもなく、忸怩たる思いを禁じ得なかったのは小生だけではなかっただろう。

一般的に米山奨学生はロータリー財団の派遣学生と比べ、目標が具体的だと思われる。ほとんどの学生が課程修了後に「大学の教員になる」、「生涯にわたり研究機関で研究を続ける」といった具体的な目標を提示した。財団の面接試験では、将来についての質問に対し、「国際交流に貢献したい」、「日本を正しく紹介したい」といった抽象的な答えが多かったように思う。

総じて学生たちは優秀で、目下の関心事はいかにしてより多く研究に費やす時間をつくるか、ということのように見受けられる。日本の先進的な分野と国民性の良い面を学びとろうとする真摯な姿勢に教えられたのは、むしろ試験官たちだったようだ。受験生は甲乙つけがたく、1点から2点差で合否が分かれ、選考の難しさを感じた。

20世紀初頭、ロータリーについてバーナード・ショーが言ったと伝えられる辛らつな皮肉「ロータリーいずこえへ、昼食へ」の言葉を忘れることはないが、ロータリアンの播いた種が開花していく奨学生事業の意義が消えることはないだろう。一人ひとりの寄付が、食費を切り詰めてまで学問に打ち込んでいる学生たちを助けているのは事実なのだ。彼らのうち何人かは、やがて同じような境遇の者を助けることであろう。

時代は人々によって担われる。富の偏在、飢餓と飽食、増え続ける紛争と難民の世紀であればこそ地道な活動が必要だと言える。精神の薄明に閉ざされたドイツの詩人ヘルダーリンは、彼の詩集『パトモス』の中で言った。「危険のあるところ 救いもまた育つ」と。

(コーナー担当：正房 正孝、高木 淳光)

